

未来



郵政産業ユニオン
全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙「みらい」
NO. 4508
24年12月20日(金)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

激動の一年をふりかえり 新年をどうたたかうか！

おはようございます。
祇園精舎の鐘の聲、諸
行無常の響きあり。娑羅
双樹の花の色、盛者必衰
の理をあらはす。…有
名な平家物語の冒頭文で、
平家の滅亡を「驕り」と
する歴史小説です。

今年の出来事の第一が、この教訓を忘れた自民党安倍派（極右派）がお金（裏金）で自滅したのが、十月の総選挙でした。おかげで立憲などの野党が過半数以上で勝ち、護憲勢力が三分の一以上を獲得しました。これは予想外ながら一安心です。

第二が、今年は世界中で選挙があり、ほぼ政権与党が敗北する混乱の始まりの年でした。アメリカではトランプが勝ち、自国第一主義で世界は揺らぎます。なぜならこのトランプがいう「アメリカを偉大に」とは、一九三三年にドイツのヒトラーがいった「偉大な国家」と同じで、「全権委任法」を手にすると、ファシズムに独裁に走ります。その背景はおりからの世界大恐慌による大量失

業下で、ヒトラーはユダヤ人の首切りを行い、そのあとに八十万人の失業救済をなし、絶大な人気を得ます。これも経済でした。トランプ現象と同じです。

十二年前に、旧・民主党が国家財政再建を大義に、自粛論を唱え、大敗した歴史を見ればわかります。これからいなら今の国民民主党の「手取りを増やす」論に引かれるのも理由があります。来年の参議院選挙はさらにこれが問われます。

状態です。人類が核兵器で終わるという世界の危機に、ノーベル賞委員会が最後に期待したのが、日本の被爆者たちの頑張りだと思えます。長崎の被爆者、二世もふくめ、核廃絶にがんばります。

民主主義の国で、選挙で選ばれた大統領が、戒厳令で政敵の議員や国民を抑圧する時代が目前で起きています。これは日本でも起こり得ることと、安倍政権時に戦争法や非常事態法が成立しています。人権や法も無視する強権政治は許されません。



第三に十二月の被団協のノーベル平和賞の受賞は嬉しい出来事でした。被爆者の懸念のたかいたが一番ですが、同時に世界的に核抑止論が台頭し、ロシアやイスラエルなどの戦争では、核使用が公然と語られることへの「警鐘」といえます。

第四に、今年元日の能登半島地震です。年の初めの大地震に驚きましたが、いまだに復興が進まないのは問題です。幸いにして原発が停止中であり、原発事故の危機は免れましたが、東日本大地震を経験した日本としては反省がなく、原発再生が政府・自民党で進んでいます。

第五が、韓国の戒厳令騒動でした。軍が国会を襲撃し、議員を逮捕する命令が出ましたが、国会前に集まった多くの国民や議員たちの奮闘で、これは阻止されました。民主主義の勝利といわれて

国民の最大の関心事は経済です。権力者が「賃金引上げ」をいうときは、要注意です。自民党副総裁の麻生は「政治はナチスに学べ」とかつていいました。これは安倍が政権復帰した

一九四九（昭和二四）年のソビエトの核実験で始まった世界の終末時計の最初は三分でした。それが一九九一年の冷戦終結時に七分までにのびましたが、今は九十秒までと、まったく後がない

第六ですが、最後はやはり生活と経済です。物価上昇が続く暮らしは苦しくなる一方です。改善するには春闘時の賃上げと夏の最低賃金引上げが欠かせません。働く人の半数が非正規雇用という中、関連の労働法を改正させることも重要です。日本の労働組合もこの原点を守り、働く人を大事にする組合活動を実践し、たたかうことです。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望者全員が正社員化を。

めいせ、均等待遇、なぐさう差別！ ユニオンは労契法裁判に勝利するぞ！

期間雇用パート労働者の皆さん！ 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。

郵政ユニオン長崎の
ホームページはこちら

